



平成27年度文部科学省大学教育再生加速プログラム(インターンシップ等を通じた教育強化)
「中長期・実践型インターンシップ推進と教育的な指導体制の構築」

中長期・実践型 インターンシップ事例集

はじめに

本事例集は、中長期・実践型インターンシップ推進委員会（福岡・佐賀地域）が全国の企業・事業所、大学、短期大学、専門学校のみなさまにご活用いただくことを目的として作成いたしました。

本委員会では、平成26・27年度に中長期・実践型インターンシップ教育プログラムの開発と実践に取り組みました。取組実績は14例ございましたが、その中で、大学混成で福岡、佐賀地域で実施した事例として4例を選定いたしました。

本事例集が、実践型インターンシップの受入を検討されている各関係機関のご担当者のみなさまに、少しでもご参考になれば幸いです。

取組の趣旨

本事例集は、平成26年度に文部科学省「産業界ニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」（平成27年度に「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」に事業名変更）として採択された「中長期・実践型インターンシップの推進と教育的な指導体制の構築」（福岡県立大学（幹事校）、福岡工業大学、西九州大学、九州インターンシップ推進協議会）の取組の成果です。

本取組では、職業理解・職業体験を目的とした体験型（仕事理解型）インターンシップに加えて受入先の課題解決や業務推進と成り得る実践型（課題協働型・事業参画型）インターンシップの教育プログラム開発、大学や受入先企業・自治体・団体におけるインターンシップのコーディネートを行う専門人材の育成等を目的としました。

本取組での実践型インターンシップは、受入先・大学・インターンシップ支援組織でプログラムを共同設計し、受入先のプログラム毎に学生・受入先・大学・インターンシップ支援組織で課題や目標設定、スケジュール確認を行った上で実施いたしました。インターンシップ実施期間中は、大学及びインターンシップ支援組織担当者が中間フォローを行い、プログラムの成果を評価するため、インターンシップ終了後に連携大学合同でのインターンシップ成果報告会、ループリック評価表の活用、インターンシップ実施後の受入先への面接調査等を実施いたしました。

事例1

株式会社クックチャムプラスシー

期間 平成27年2月16日～3月28日(6週間)

課題 新規店舗の周辺調査(マーケティング)と目玉商品となるお弁当新商品の提案

目標 お弁当新商品の提案と1日15個販売

今まで一度も包丁を握ったことがない、アルバイトもしたことがない、混成チーム(3大学3者)で取り組みました。そんな学生が店舗の従業員の方とともにサラダ作りから揚げ物、レジ打ち等、汗を流して働く中で、働くことの厳しさに触れました。また、お客様が食べたいもの・買いたいものを調査するために、飛び込みでの周辺の会社に聞き込み調査・・・怖くて足が震えました。しかし、お客様のニーズを基に企画して販売した「春色バランス弁当」は、彩りも味も学生ならではのアイデアが詰まったものとなりました。販売目標達成率は95%と100%には一步届きませんでしたが、実習最終日に「いなくなるとさびしいね」とお店の方に言っていただいたことが学生にとって何よりの喜びでした。



厨房での実習中。真剣なまなざしで調理の方法を聞いています。



持ちなれない包丁を持ち、緊張の作業。



実習の成果として提案した「春色バランス弁当」!

事例2

株式会社スミリオン

期間 平成27年2月16日～3月30日 (6週間)

課題 新システム開発における市場調査・企画立案・販促企画プロジェクト

目標 市場の顧客ニーズを調査し、新システムのPRを行う

福祉施設や病院等で活用が見込まれる新システム開発のため、混成チーム(2大学3名)で取り組みました。システム開発班と営業班に分かれ、プログラム開発、機器選定、試用企業様の開拓等に取組みました。実際にクライアント様にシステムの試験運用を体験いただき、商品としての通用度確かめるなど、正社員と同様の企業体験をさせていただきました。試験運用ではプログラムや機器の不具合、プレゼンの失敗などもありましたが、担当者様からの熱心なご指導の下、販促企画までには到達できませんでしたが、何とか商品のプロトタイプを作り上げることができました。仕事を行う上では、100%以上の力を注がないと事が成り立たないということを全員が自覚できたインターンシップでした。



全員で目標を共有しました。緊張しました…



社内打合せの様子です。



デモンストレーションの時です。

事例
3

九州魚市株式会社

期間 平成27年8月18日～9月12日（4週間）

課題 魚市場(店舗)のイメージを刷新し、新たな付加価値を創造・提案しよう

目標 自らの手で店舗イメージの刷新と商売の活性を図る

混成チーム（2大学2名）で取り組みました。活動は午前中のみと短かったため、店舗改装にはとても苦労しました。また、店舗を利用されるお客様と十分なコミュニケーションが取れなかったため、アンケートにて「店舗のイメージや要望等」のニーズ調査を行い当初考えていた改装から活性化に変更しました。店舗の使いやすさや居心地に留意し、値札の統一・吊りPOP作成、商品一覧の作成を行いました。企業様より従業員の意識に変化があり、社内活性に繋がったと評価をいただきました。学生はニーズ調査結果も踏まえ、自分たちのアイデアを取り入れることを難しく感じたようです。



朝市の様子です。



店舗について担当者様より話をうかがっています。



作成した吊りPOPと壁紙です。

事例
4

レシピ開発研究所

期間 平成27年8月17日～9月11日（4週間）

課題 窯元紹介・開発レシピブックの作成・配布

目標 伊万里(佐賀県)の地域に合うレシピの開発・提案

“食のまちづくりアドバイザー” 地域活性化を目指す企業で、伊万里焼の窯元紹介・レシピブックの作成に取り組みました。多数の窯元の魅力を発信したいと考え、1件1件を訪問し丁寧に趣旨を伝え、多くの窯元様に賛同いただき、当初の目標以上に取材許可と器の提供を得ました。健康栄養学科の学生が主にレシピを作成、マスコミ志望の学生が主に記事を作成。専門性を活かしたチームワークで目標を達成しました。その過程の中で、器の見せ方や簡単料理方法を獲得した学生。また、窯元の熱い思いに文章の責任を感じた学生。全ての過程で想像力を膨らませ、先を考えて行動することの重要性を学ぶインターンシップでした。



窯元様への取材風景。とても緊張しました。



提供いただいた器を選び、どんな料理を盛りつけるか思案しました。



出来上がったレシピを実際に調理している様子。



写真スタジオで撮影しました。

学生の声



実習先企業 「株式会社スミリオン」

後藤 雅明さん (福岡工業大学 工学部知能機械工学科)

それまでは普通の大学生で、そこそこ勉強もしていたし、テストも8割くらいでいいと思っていました。しかし、社員の方と共に成果を出したいと考え出してから、休みの日も自分の分からない点を調べて勉強するようになり、知識を身に付けられたことは、何より自信に繋がっています。今では100%を目指すようになり、今まで以上に、勉強にも力を入れるようになりました。



実習先企業 「株式会社 クックチャンプラスシー」

大橋 真実さん (西九州大学 健康栄養学部健康栄養学科)

福岡市のお弁当屋さんで6週間のインターンシップに参加し、さまざまなことに気づき学ぶことができました。一つ目は自分で考えて動く力の重要性です。二つ目は自己分析の深まりです。週4~5日8時間の店舗実習を行い、本当に大変で挫折してしまいそうなことがありましたが、そこから私は物事を継続して行うことが苦手だと気づくことができ、今後の学生生活では継続力を培っていきたいと思いました。学生のうちに一度社会に飛び込んでみて本当に良かったと思いました。



実習先企業 「株式会社 NOTE」

岡本 真歩さん (福岡県立大学 人間社会学部人間形成学科)

筑豊地区の情報誌を制作している編集社で活動しました。事前準備では、質問紙の作成や入力作業と想像を超える時間を費やし、授業で学習したことを活用して統計や解析の実践につなげました。多くの貴重な体験をしましたが、特に社員の方々の丁寧な対応(挨拶)、仕事に対する姿勢や働き方に感銘を受けました。楽しそうにかつ前向きに仕事をしている姿は目標になりました。

企業の声



株式会社スミリオン 福田 裕聡 社長

弊社はソフトウェア開発を通して中小企業の経営のお力になることを生業としております。

よって、弊社でインターンシップの受け入れ時に、中心となる仕事はソフトウェアの開発となります。

だからと言って、パソコンを見つめ続けながら丸一日プログラムをしていればよいわけではありません。ソフトウェア開発を行う上で最も重要なのはお客様です(全ての仕事に必要なことです)。そしてお客様との間で必要なモノは、相手の求めているものを100%理解した上で、お客様の求めているモノ以上のモノをご提供することです。

ソフトウェア開発というのは、お客様が何かしらお困りや実現したいものがあり、それを解決・叶える術の一つなのです。ですから、お客様と接する段階ではプログラムの知識は必要ありません(ゼロではないですが)。IT関係の知識は必要となります

が、もっとも必要となるのはお客様への気遣いや思いやりです。

また、こういった仕事を通して、基本的な約束を守る、守れなければ相談・提案する、問題があれば解決する、チャレンジするなどの基本的なスキルも必要となります。

インターンシップでは、こういった基本的なスキルの必要性を学生の皆様に感じてもらい、よりよい生き方の気づきになれることが我々の役割ではないかと思い、受け入れをさせていただいております。

社会に出てから、この基本ができていて早期に仕事のやり方を習得できると考えています。また就職先でも、「できる新人」として大きく期待されると考えます。

インターンシップを通してより良い人生を送るきっかけになっていただけることを期待しています。

総括

本補助事業では、福岡県立大学、福岡工業大学、西九州大学と九州インターンシップ推進協議会が連携して、実践的な産学連携のキャリア教育型（課題協働型、事業参画型）インターンシップ教育プログラム開発に2年間取り組みました。受入先によってプログラムの内容は異なりますが、受入先が抱える課題の解決に向けて取り組むことによる課題発見・解決力、連携大学で混成チームを組むことによるチームで働く力を養うことを共通の目標としました。

平成26年度春季に6週間（受入先5社、参加学生11人）、平成27年度夏季に4週間（受入先8社、参加学生16人）のインターンシップを実施いたしました。成果物を目標とした活動を行い、受入先からは、「学生から、先入観にとらわれないアイデアを取り入れられた」「周辺地域の調査により顧客のニーズを知ることができた」などの好評価を得ることができました。学生は、達成感に加えてチャレンジ精神の向上、広い視野の獲得、チームで協働して働く力など、多くの学びを得ることができました。本取組では、インターンシップに関わるスタッフが十分とは言えない中小企業・団体が学生を受け入れて下さり、実施することができました。そのため、紹介している事例は、多くの中小企業・団体に参考にしていただけるプログラムだと考えております。

中長期・実践型インターンシップ推進委員会 福岡県立大学（幹事校）
就業力向上支援室 代表 石崎 龍二

今後の展開

福岡工業大学

キャリア教育の全学的なカリキュラムである就業力育成プログラムを実施、大学4年間を通じた就業力の育成を図っています。

インターンシップは、同プログラムの2・3年次科目「就業実習」で単位認定を行っており、その一つの実習形態として本取組で開発したプログラムを課題解決型インターンシップとして実施していきます。



西九州大学

28年度以降も共通教育科目で設定している短期・中長期インターンシップ（IS）を継続実施していきます。29年度以降は学科単位で設定されているISを共通科目群に統合し、より多くの学生がトライできるカリキュラム整備を行う予定です。また、ISをコーディネートする専門人材の育成、地元金融機関を活用した企業連携等も強化していきます。



福岡県立大学

本学では、本事業の取組の成果として1・2年次生「プレ・インターンシップ」単位取得者を「実践型インターンシップ」の対象者とする初年次からの段階的なインターンシッププログラムマップを整備していく予定です。学生の自己評価、受入先による外部評価にルーブリック評価表等を活用し、教育効果の検証を行いながらプログラムの充実を図っていきます。



■ 中長期・実践型インターンシップ推進委員会
～福岡・佐賀地域～

福岡県立大学（幹事校）

福岡工業大学

西九州大学

九州インターンシップ推進協議会

■ 活動の詳細

<http://www.fukuoka-pu.ac.jp/Internship/>

■ 事例集に関するお問い合わせ

福岡県立大学 就業力向上支援室

〒825-8585 福岡県田川市伊田 4395 番地 TEL 0947-42-1321